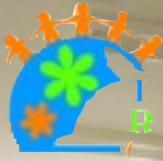


わか草



第9号 平成21年1月1日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂3-3-25



「新年への希望」 院長 有馬 正高

クリスマス会にて
(平成20年12月18日撮影)

眼前の街路樹や広い浄水場の敷地を彩った黄や紅が次々と落ち葉になり、潮風が突風となって頬を冷やす季節になりました。

センター内は、綿雪に覆われたクリスマスツリーのライトや様々な飾りにぎわっています。間もなく、門松とともに新年がやってきて、平和な明るい年になって欲しいと皆が願うことでしょう。

三年前の十二月一日、センターは外来診療を開始し、三階の「ちこゆり」と「ひなげし」も活動を始めました。次いで、二階の「なのはな」と「こすもす」も四月に開設し、長年待ち望んでいた入所を申し込まれた重症児(者)三百人から選ばれた九十人の方達を受け入れることができました。

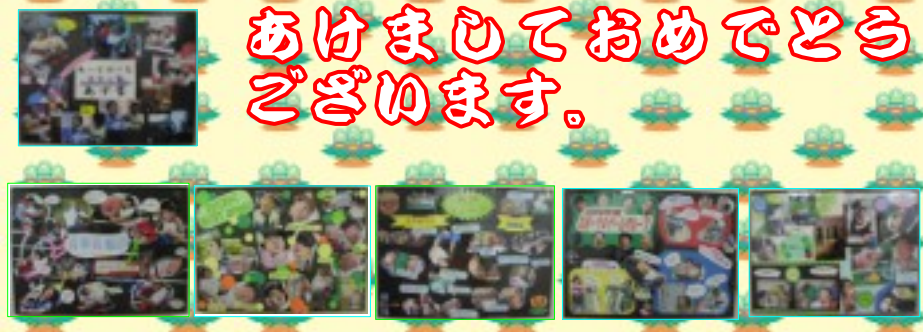
家族や病院から移ってこられた多数の生命の危ない人達が、洩れなく、安心して生活と医療が続けられるようにとの目標は、かなりの苦心と困難を伴うことでした。無我夢中で、季節にも目が行かなかつた創設期が過ぎ、辿ってきた数々の想いと、達し得た喜びを共に味わいたいと感じます。この三年の触れ合いの中で得た智識、学習、特に観察力は、育児、障害者や高齢者の医療と生活等の専門家とも共有できる財産となりましょう。

しかし、私達の役割に終わりはありません。地域社会で生活する重症児

(者)との接点は、外来、通園・通所、病棟への短期入所などの制度があります。近年、医療を要する重い障害をもつ在宅の人達の増加と家族の要請にこたえ、センターと名のつく全国の多くの施設がこの活動を行うようになりました。最新の資料によれば、この三年間に来診された二人余の新患のうち、二百人が短期入所を利用し、利用回数は七百七十件とのことでした。高まる要望と期待にこたえる発展の年としましょう。



あけましておめでと
ござります。



委託業者紹介

売店

平成十九年十一月から売店の運営を行っています、小松川支援センターです。（運営法人特定非営利活動法人自立支援センターむく）

当法人は、重度身体障害者グループホーム、生活介護、地域活動支援センター、ホームヘルプ等の障害者自立支援法の事業を行っています。病院での売店運営は初めてですが、四名の専門スタッフと法人とのスタッフとのローテーションで皆様にご迷惑をおかけしないように、売店運営に努めています。また、当法人施設で製造した、自主製品等も売店で販売していますので、どうぞ皆様お立ち寄りください。お待ちしております。

総合情報システム保守

私たちは二名で業務を行っています。業務の内容は、電子カルテや療育システムなど総合情報システムのサーバの監視・トラブル対応やシステムの運用や操作方法の説明です。

私たちが分かる範囲で回答を行い、分からない点はシステムエンジニアに確認し、回答しています。また端末やPDAの故障等が発生した際には、予備機を設置し修理業者に修理の依頼を行っています。

いつも笑顔での対応を心がけていますので、何かありましたら気軽に声を掛けて下さい。

中央材料室

私たち日本ステリは四階の中央材料室にて業務を行っています。私たちの仕事は再生滅菌物の回収・洗浄・滅菌・供給、診療材料の供給、手術室の術後清掃、そして高機能器（医用電子機器）の保守点検です。月曜日から金曜日の午前九時より午後五時四十五分まで、常時五、六名にてこれらの作業にあたっています。

また、滅菌物については院外の滅菌センターも活用しています。

これからも滅菌物・材料・機器を必要な時に医療現場に確実に供給することで医師・看護師の方々がサポートし、施設を利用される方々がより快適に過ごせるよう、スタッフ一同全力をあげて頑張りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。



中央材料室スタッフの皆さん

福祉バス

当社は、昭和五十四年に創業、平成二十年現在リフト付バスを約三百台所有し、都内随一の規模を誇り、東京二十三区内外の学校及び障害者施設に通所されるお客様の送迎とそれに付随する業務を請け負っています。

私達、東部療育センターを担当するメンバーは、添乗員一名、運転士六名の心優しい面々が送迎業務を担当しています。

乗務に際しては、東京福祉バスの乗務員として誇りを持ち、お客様の足としてお客様の生命をお預かりしているという自覚を持ち、明るく、親切に、心をこめて安全、快適に目的地まで送迎する事を、これからも日々心掛けてまいりますので宜しくお願い致します。

街でバスを見掛ける事がありませんから手を振って下さい。

尚、当社には観光部もあり冬の行楽シーズんがいよいよ始まります。バスの旅を計画の際は当社をご利用下さい。



運転士の皆さんと添乗員さん

新人紹介①

今回は、山岡俊枝看護科長と野口ひとみ先生の紹介をさせていただきます。



枝長 俊科
岡 護
山 看

四月に当センターに参りました。緊張した思いで玄関をくぐったことを思い出します。四月の始めに、かもめ分教室の入学式に出席させていただきました。利用者の方々が素敵におしゃれをして嬉しそうなお顔とご家族の方のお喜びを見て、とても感動致しました。

あっという間に八ヶ月が過ぎました。利用者様に話しかけると、手を握り返してくれたり、笑顔で応えてくれたりすると私自身も嬉しくなります。他職種の方と連携して楽しい時間や楽しい表情を多く見ることができるよう、利用者様のQOLが向上するように、皆様と一緒に療育をより充実していきたいと考えています。これからもどうぞよろしく願います。

最後に私の楽しみは旅行先で新しい発見をして感動したり、約四年間続けているヨガの呼吸法などで癒されることです。

オータムフェスティバル特集

十月七日、第三回オータムフェスティバルが開催されました。心配されていた天気も好天に恵まれ、会場は熱気に包まれて暑いほどになりました。

今年度は昨年好評だった喫茶コーナーに加え、ゲームコーナーは大相撲、運試しおみくじと、利用者の方々も大興奮！力士に扮したスタッフも、病棟への巡業も行い、コーナーへ出られなかった利用者からも大変喜ばれました。

また、アトラクションではピエロの練り歩きに目を輝かせ、スタッフ・かもめ分教室の先生方の演奏や踊りでは気分も最高潮に！アトラクションは屋外療育場を使つての野外ライブだったので、また違った盛り上がりを楽しめたようです。

年々、内容も充実しているとの声も聞かれ、来年度はより一層、皆さんに楽しんでいただけるよう企画・検討していきたいと思っています。



職員による花笠音頭



リハ職員による演奏
YAAMAAS (ヤーマーズ)



見事な踊りや演奏に感激！



いらっしやいませ～



はい。ちーず



はっけよ～い のこった

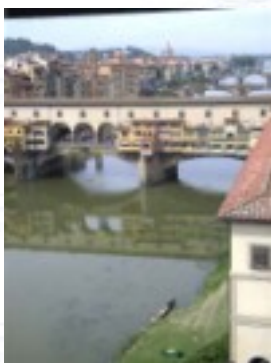
新人紹介②

二〇〇八年四月に東部療育センターに赴任いたしました野口ひとみと申します。

現在まで医師として、障害児医療に携わってまいりました。障害者の方にとつては、ご家族やそれを支える多くの医療福祉従事者の方々の存在が大きな歯車となり、また常々思うことは、その双方の協力や寄り添いがなければ、歯車はスムーズには回転できず、十分な支援提供が困難であるということです。

これからも当院を利用される方々、またそれを支える方々が自然体でともに笑顔につつまれた毎日を送っていただけのように、医療という潤滑油の提供のお手伝いをさせていただければと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。



旅先での風景

「ちょっとした遊び心」
東京都 居住支援課 片岡 清之

当センターの外来の待合室で、歯科の先の一番奥まったところに、昼は明るく、夜は銅鑼のようなものが見える不思議な四角い空間があります。

ここは、機械棟との通路でもあり、時々中央監視の方が出入りしますが、そばまでいくと、吹き抜けの天井になっていて、天井との間にホームページの写真館でも紹介されているオブジェが設置されています。

建設時に、このセンターは利用者の方の生活の場でもあるので、建物の中も散歩して楽しめるようになっていた方がいいな、という声があり、設計会社の人にいろいろなアイデアを出してもらった、という経緯がありました。様々な光を浴びて、東部療育センターの外来を輝かせてくれるこのオブジェがとも気に入っていますが、まだ名前がありません。ぜひ、皆さんで素敵な名前を考えてみてください。



歯科外来の脇にあるオブジェ

理学療法士 小山さん表彰

十月二～三日に佐賀市で重症心身障害療育学会学術集会在開催されました。そこで私が発表した演題「重症心身障害児の療育場面での頸椎装具・体幹保持装具の有用性」が読売療育敢闘賞を受賞しました。

発表は、頸部や体幹が不安定な重症児が装具を使つと姿勢が安定するので、公園遊びや乗馬や製作等の様々な姿勢での活動に取り組みやすくなり、経験できることが増やせ、介助も楽になるという内容です。頸椎装具は、前職場に勤務していた時から、それらが必要とするお子さんらを前に工夫してきたものです。たくさんの親子と装具の素材のアドバイスをしてくださった業者さんと一緒に試行錯誤してきたものだけに、今回の受賞はうれしかったです。ご協力くださった皆さま、本当にありがとうございます。

装具の見本は、理学療法室にありますので、興味のある方、ちょっと使ってみたいなという方がいらつしやいましたら、遠慮なくご相談ください。



受賞した会場で撮影

写真右から順に小川指導員、岩崎副院長、リハ科小山主任、日高支援科主査、大島看護師

東部あれこれ

今年の十月から十二月にかけて当院で行われた行事等について紹介します。

【十月】

七日にオータムフェスティバルが開かれました。秋晴れの中、開会式を初めて屋外療育場で実施しました。バンド演奏、喫茶コーナー、大相撲南砂町場所等、多彩な催しにより盛り上がりました。参加者は昨年より十四名多い三十七名でした。

二十日から二十四日に離職中の看護職の再就職を推進するための復職支援研修の第一回目が開催されました。



参加者の楽しむ様子
(オータムフェスティバルにて)

【十一月】

七日通所、十二日入所の今年最後となるバスハイクが行われ、通所は葛西臨海公園、入所は夢の島熱帯植物園で楽しくリフレッシュしてきました。

十二日～十四日、平成二十年度

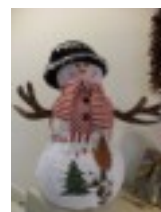
事業計画進行状況ヒアリング(中間)が各部内の代表者とセンター幹部とで行われました。



バスハイクの様子
(葛西臨海公園にて)

【十二月】

十七日、十八日の両日にわたり、各病棟と通所のクリスマス会が行われ、皆さんサンタさんからプレゼントをいただきました。



クリスマス会の様子

編集後記

わか草第九号をお届けします。東部療育センターは開設から三年経ち、わか草も二周年を迎えました。わか草の第一号からずっとみていくと、東部のさまざまなことがわかるだけでなく、東部の変化も見てとることができるようになってきたのではないかと思います。コラムでは「カツティングエッジ」が終了し、「東部なあし」が始まりました。皆様お気づきになられたでしょうか？編集部も皆様が楽しめるよう、知恵を振り絞ってアイデアを出し合っています。東部四年目の新春を皆様は新たなお気持ちで迎えられたことと思います。今年一年の皆様の健康とご多幸をお祈りして、今回の編集後記を終えたいと思います。